

外部卓話 「薩摩の秘剣 薬丸自顕流」

薬丸兼弘様

鹿児島（薩摩）には往時より連綿と受け継がれている2つの古流があります。

1つは薩摩の上級武士を中心に修練が積み東郷重位を始祖とする東郷示現流。そして、もう1つは薩摩の下級武士の多くが修練を積んだ薬丸自顕流となります。

薬丸自顕流の歴史は大変古く、平安時代に大伴氏の末裔である伴兼行が薩摩へ総追捕吏として入職した頃に遡り、その後大隅の肝付へ赴任し伴氏が肝付性へと名を変遷し、その末裔が薬丸性を名乗り肝付家の家老職として家伝の野太刀を継承していく事となりました。



東郷示現流と薬丸自顕流の関係は当流初代の薬丸吉岐守（兼成）が東郷重位の初陣を介添えした頃始まり、その後孫の薬丸兼陳が東郷重位の門弟となり東郷流の師範等を勤めつつ、薬丸家伝の技も継承し9代兼武の代に薬丸自顕流として独立することになります。

幕末・明治以降に活躍する門人を多数輩出致しますが、その中でも西郷従道、大山綱良、桐野利秋、海江田信義、伊地知正治、東郷平八郎等他にも枚挙にいとまがない程です。

薬丸自顕流の特徴と致しましては、薩摩独特の武士の土風が色濃く反映され防御の技すらも無いという正に裂帛の気迫を持って初太刀での両断を目的とする質実剛健の剣術です。また、集団戦を前提とし一人で多数の敵を切り伏せる剣術であるため、少ない技をひたすらに鍛錬し極めて合理的、実践的に体系化

されたものとなります。

明治の元勲が砲弾と硝煙の中を潜り抜けてきたように薬丸自顕流も同じようにその時代を潜り抜け現在まで継承されてきました。

一旦のお役目は明治10年の西南戦争で終える事となりますが、郷土の先人方達が様々な困難や内憂外患といった時代を必死三昧の境地で切り開き、明治維新を薬丸自顕流でたたき上げたように、自顕流の意地と技を練り上げ後世に紡いでいく事こそが当流の使命であると考えております。



●出席率 80%を目指しましょう！

第3024回例会 出席報告		
会員数	出席数	出席率
41(39)名	19名	48.72%

●今後の予定

6/1(水)	クラブフォーラム
6/8(水)	クラブフォーラム
6/15(水)	会員卓話 萩原会長

市内ロータリークラブのプログラム 記帳メークアップ★11:30~12:30 ☆17:30~18:30

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	5/26(木)	☆夜間例会18:30~	ホテルレクストン 鹿児島	令和	5/30(月)	例会なし	ホテルレクストン 鹿児島
北		地区大会報告	アートホテル	東南	5/31(火)	例会なし	サンロイヤル
サザン		Web例会 クラブ協議会(地区大会報告)	ホテルレクストン 鹿児島	城西		例会なし	ホテルレクストン 鹿児島
鹿児島	5/27(金)	地区研修協議会後のクラブ協議会	山形屋	西	6/1(水)	休会	山形屋
アガミー		例会なし	鹿児島大学	西南		クラブ協議会	ビエント
中央	5/30(月)	レディース例会	山形屋				